高山萌美

ゼミ論テーマ　氣志團の魅力

氣志團は 2010 年 9 月にアルバムをリリースし、同じく 2010 年 9 月から 2011 年にかけてホールツアーを行うなど、現在精力的に活動している。
しかし、2001 年にヒットしたワンナイトカーニバルだけ知っているという人や、テレビの露出が少ないため、氣志團についてよく知らない人も多い。私もその一人であったが、たまたまライブに行き、そのおもしろさにすっかりハマってしまった。
そこで氣志團の魅力を解明するため、資料を集め調べた。少しでも氣志團に興味をもってもらえたら幸いである。
　氣志團は学ランにリーゼントといったスタイルが特徴の 6 人組ロックバンドである。2001 年にワンナイトカーニバルがヒットし、2004 年と 2005 年には紅白歌合戦にも出場している。2006 年後半から約 3 年間、活動をしていなかったが、2009 年に活動を開始し、2011 年でメジャーデビュー10 周年を迎える。
私の周りの話しではあるが、氣志團のファンだというと、「バンド？」「何人だっけ？」「解散してないの？」「懐かしい」「ワンナイトカーニバルは知ってる」といった程度の認知度の人も多いようである。
ボーカルの綾小路が「B'z が富士山（標高 3,775.63m）だとすると、氣志團は鹿野山（標高 379m）ぐらいの位置であります。」というようにツイッターで呟いている。また、コミックバンドとかお笑いバンドといったイメージを持っている人もいるようで、世間的に見ると氣志團をよく知る人というのは少ないのであろう。
そんな、学ランにリーゼントというイメージはあるけどよく知らない、という人に、氣志團は音楽的にも他の面でも、他のバンドとは一味違う魅力を持ったバンドであるということを紹介したい。
　まず最初に氣志團の作品についてだが、氣志團の作品には「模倣」が多い。ウィキペディアにも、「彼らの曲のタイトルや歌詞は模倣が多いが、パロディとしてこれは誰にでも解るようにしているためである。」と書いてある。ではいくつか例を挙げる。

［この位置にある引用画像はネットへの公開に際して削除します］
左：氣志團のアルバム「Boy's Color」のジャケット（タイトルは KRNJI＆THETRIPS の「BOY’S COLOR から」
右：ブロンディのアバム「妖女ブロンディ」のジャケット

［この位置にある引用画像はネットへの公開に際して削除します］
左：氣志團のアルバム「1/6 LONELY NIGHT」のジャケット。（タイトルは湘南暴走族の「1/5 LONELY NIGHT」から）

右：INU のアルバム「メシ喰うな！」のジャケット

［この位置にある引用画像はネットへの公開に際して削除します］
左：氣志團のシングル「SECRET LOVE STORY」の裏ジャケットット
右：BUCK-TICK のアルバム「悪の華」のジャケット

［この位置にある引用画像はネットへの公開に際して削除します］
左：氣志團のアルバム「TOO FAST TO LIVE TOO YOUNG TO DIE」のジャケット
右：ユニコーンのアルバム「服部」のジャケット。
どちらも同一人物である。

［この位置にある引用画像はネットへの公開に際して削除します］
左：氣志團のロゴ
右：BOOWY のロゴ

歌詞の模倣
・ヒーローになる時、それは今→甲斐バンドの HERO から
・俺のとこ来ないか→杉本哲太&LONELY - RIDERS の On the Machine から
・とにかくもう学校や家には帰りたくない→尾崎豊の 15 の夜から
・行儀よく真面目なんてうんざりだった→尾崎豊の卒業いから
・俺たちまるで捨て猫みたい 、今だけは哀しい歌聴きたくないよ→尾崎豊の I LOVE YOU から
・行こうぜピリオドの向こうへ　→　チェッカーズの Jim&Jane の伝説から
・ちょうど三年前のこの道を疾走った夜～→THE 虎舞竜のロードから
・6 for Japanese Babies→　BUCK-TICK の ICONOCLASM から
・愛・愛・ONE MORE KISS →BUCK-TICK の UST ONE MORE KISS から

メロディの模倣
・鉄のハートのイントロ→SHOWYA の限界 LOVERS から
・甘い眩暈のイントロ→BUCK-TICK の悪の華から
・RUN★BAKURATEN★RUN のギターソロ→The Willard の Lightning から

その他
・「氣志團」という名前は立原あゆみ作のマンガ「本気（マジ）！」の中に出てくる気志団というグループを旧漢字で示したもの。
・氣志團現象（ツアータイトル）→BUCK-TICK のライブのタイトル BUCK-TICK 現象か

ら

・ceronius（グッズで使われているマーク）→cornelius(コーネリアスのロゴ)から

［この位置にある引用画像はネットへの公開に際して削除します］

俺たちの七日間戦争（ツーアーのパンフレット）→ぼくらの七日間戦争の DVD から

［この位置にある引用画像はネットへの公開に際して削除します］

など、これは一部であり、氣志團がこれまでパロディ化してきたものは半端な数ではない。手に取った側は、元ネタが分かった時思わず笑ってしまったり、ここから持ってきたのか、と感心させられてしまう。元ネタと比べたり、元ネタを探してみたりといったことも氣志團の作品の楽しみ方なのである。摸倣していると分かっていながらも、それが氣志團の作品として定着するのは、上手く作品の中に取り入れるアレンジの仕方や、センス良さを感じさせる。模倣することに関して綾小路は、「新しいこと、新しいことってみんないうけど、発明しようとしてたらやっぱりダメなんですね、僕らは。そうじゃなくて、もう既にあるものを更に違う形で出すことによって新しいものが生まれるんです。」と発言している。敢えて新しいものを作り出すのではなく、アレンジで勝負しているようだ。また、『「ああ、あんなんだったら俺もできる」っていう勇気を与えるっていうのも、一つの重要なポイントなんじゃないかなあ』とも発言している。例えば B’z、GLAY、ラルクといったバンドがやってることには憧れをもつことはあっても実際手の届かないイメージがある。しかし氣志團のやっていることといえば、「摸倣」から始まるものであり、これだったらできそうという勇気や希望を与えることができる。それが狙いでもあるようだ。また、「８０年代のかっこいいものだけを次の時代に持っていこうっていうことだったんです。基本的には俺たちは自分たちのアイディアなんかないんですよ（笑)。人がやったアイディアをまるごとやることが面白さに繋がる、それに気づいてくれた人がいるといいなって思っていたので。」

と発言しているように、綾小路は８０年代の文化を好む人物であり、特に８０年代の音楽や漫画から引用してくることが多い。それらの作品をリスペクトしているからこそ、それを次の世代に伝えたい、という思いもあるのだろう。綾小路のアレンジにより、古い作品の摸倣ではあるが、しっかり若者にも支持されている。

氣志團は作品の中だけでなく、ＭＣの中でも８０年代のネタを使っている。ある雑誌では「綾小路の発するＭＣネタが少々古い。例えば「Ｖのベルトはバレンチノ！」なんていうのは７０年代後半から８０年代前半を知っている人じゃないと面白さが分からないと思うんだけど、ライブに来ている１０代の若者が爆笑してるんです。これは綾小路の持つ有無を言わせぬパワーの勝利なんじゃないでしょうか」と書かれている。氣志團のライブでは綾小路のＭＣが一つの醍醐味となっている。ライブハウスで演奏していた頃は、ＭＣをやっている間はお客さんがいるが、演奏が始まると帰って行ってしまうということがあっ

たぐらいだ。このＭＣのおもしろさから人気が出たと言っても過言ではない。ＭＣ中の発言でも８０年代の音楽の歌詞だったり、マンガの中のセリフが使われ、冗談とも真面目ともとれる発言の連発がなんだか奇妙で可笑しい。そんなＭＣである。だからネタを知らない１０代、２０代の人でも笑ってしまうのだ。もちろん３０代、４０代の人はネタが分かり直球でハマるため、氣志團のライブの客は年齢層が広い。このように作品やＭＣなどあらゆるところで何かしらのネタを使うことに関して、綾小路は「俺たちは、情報をとにかく投げまくったバンドなんです。それによって、ほんとに一人でもいいから引っかかってほしかったんですね。」「氣志團ってなんだ？「氣志團は情報だ」って俺は思ってるんです。もう、どの角度からでもしい。逆を言えば、たまーに見えてしまう隙も楽しいっていう境地まで行きたいですね。」と語っている。８０年代のネタが好きだから、という理由もあるだろうが、このような狙いもあるようだ。一般的なバンドは新しい、独自のものを作り出そうとするが、氣志團は古いものを使うことが実は斬新であったり、そこから生まれるものがあるということを発見させてくれるバンドである。

氣志團のライブでもう一つ注目したいのが、ライブ中に芝居をやったり、いろんなキャラクターが出てきてネタをやったりというコーナーがあるということだ。「世間一般のイメージとしては、お笑い集団とかコミックバンドみたいな認知の方が高かったじゃないですか。」と綾小路は言う。まず学ランにリーゼントというヤンキーのルックスからして、コミックバンドやバラエティ集団と誤解されたり、暴走族の集会をやっているんじゃないかと誤解されている。だから尚更このようなバラエティの要素があると誤解も生じやすい。さらにある記事では、「基本的に、氣志團のライブというのは、アイディアも、ネタも、カネも人も手間ひまも、かけられるようになればなるだけ、毎回毎回右肩上がりでどんどん投入していく、そういう、まるでバブル絶頂期の日本経済のような状態で進んできた。ゆえに、コーナー数はどんどん増え、演出は次々と考え出され、ネタは次々とぶっこまれ、登場人物は増殖する一方で、しまいには、「ステージの上の人数だけで下北沢 CLUB Que（注１）満員」みたいなことになっていた。」と書かれているように、氣志團は 2006 年に活動を休止する頃までコーナーの内容をどんどん膨らませてきた。しかし、膨らみ過ぎた弊害としてライブは４時間近くに及び、ぐだぐだ感がでてきて長いと感じてしまうようにもなったとも書いてある。これを一度リセットすることが氣志團が活動を休止した一つの理由でもある。では活動を再開してからはというと、演奏とコーナーの一体感が出るようにり、最後まで見やすくなった。コーナーはただ内容を盛り込んだものではなく、ライブの内容とマッチするように計算されているのが分かる。昔の氣志團のライブももちろんおもしろいし、何より最初に見た時は演劇か何かの舞台を見ているような感覚になり衝撃を受けたものだ。だが、演奏とコーナーと、どちらもメインという感じがした。今のライブは、演奏をしっかり引き立てるようなライブの内容に仕上がっている。もうお笑い集団やコミックバンドとは言わせない、そんなロックバンドとしてのかっこよさが引き立つようになった。そもそも何故、誤解が生じるのを承知でこのような演出をするのかというと、『やっぱ

りみんなにね、楽しさを教えてあげたい。だから、なんにも知識がなくても一緒に盛り上がれるっていう感覚を我々氣志團は持ってなきゃいけないだろう、と。ステージの面ではほんとによく「ロックバンドではありえないことやってるね」とかいわれるけど、全然そんなロックバンドがどうこうとかってこと、興味もなくてですね。「エンターテインメント集団だよね、氣志團は」とかよくいわれますけど、そんなのよくわからない。もう好き勝手やればいいなという発想なんですよ。』と綾小路は語る。もともとエンターテインナーとしての人間性が大きい人物なのだ。まず自分達が楽しむこと、そして来てくれた人全員を楽しませようという熱い思いでライブを作り上げている。コーナーがあることによって、ライブ全体にストーリーができて最後には感動のライブとなる。今までのロックバンドのライブのイメージを覆し、笑いと感動につつまれる氣志團のライブは非常に見る価値のあるものである。

さて、ＭＣや他のパフォーマンスに目が行きがちであるが、肝心の曲、演奏はどうなのかというと、氣志團は自分達のサウンドを自称「ヤンクロック」と呼んでいる。歌謡曲、ディスコ、パンク、プログレの要素を取り入れたロックのことをこう呼ぶ。氣志團の曲、演奏につてはこのような評価がある「彼らの楽曲は８０年代の歌謡曲、ポップスを彷彿させるメロディアスなものが多い。そもそも歌謡曲チックな楽曲をそのまんま演奏すれば、概ねチープなものになるもの。しかし、氣志團の場合、ロックスピリッツを感じさせる尖った演奏となるのは、彼らが月１５から２０本という驚異的なＧＩＧを昇華して行く過程で培った、演奏力とセンスが最大の要因だろう。」「しかし、曲を聞いて、こりゃ、すげえぇと正直、思いましたよ。彼らのファーストアルバムのプロデュースは元ユニコーン（注２）の阿部義晴ということもありましたが、以降の作品を聞いても、素晴らしい。綾小路という人は半端じゃなく音楽を研究してきたんだと思います。もしこれがセンスだけで作られたんだとしたら、天才ですよ。特に楽曲の構成は秀逸で、彼は子供の頃からコンポーザーとしてかなり訓練を受けてきた経験があるんじゃないでしょうか。」という絶賛の声がある。見た目からは想像がつかないほど、かなりクオリティが高い楽曲が作られている。氣志團の曲のほとんどは綾小路によって手がけられている。８０年代のパロディが盛りだくさんで、ロック、ディスコ、歌謡曲といったいろいろな要素が盛り込まれているのが特徴だ。このようにあらゆる要素が盛り込まれているにも関らずそれが氣志團の音楽として、キャッチーな仕上がりになっているのが凄いところだ。綾小路の頭の良さを感じさせられる。彼は無類の音楽好きであり、その知識の量は音楽専門誌の編集者も顔負けだという。「ほんとにやっぱりピュアに音楽大好きだ！っていう面もあるし、それはそれで俺はメンバーの誰にも負けないつもりありますしね。俺が世界で一番音楽好きだ！とも思ってますしね。」と自身も語っている。綾小路が膨大な知識を持つ人物であるからこそヤンクロックといった、幅の広い音楽を作ることができるのだ。また、インディーズ時代から多くのライブをこなしてきただけあって、演奏力にも優れている。ライブではさらに演奏に加えてダンスも楽しめる。ダンスもとんねるずや工藤静香からパロディ化しているという、徹底ぶ

りだ。ライブでは、綾小路と、ダンス＆スクリーム担当の早乙女光が歌い、踊って客を煽る。バンドでありながら楽器を担当していないという、早乙女光の存在もまたおもしろい。このフロントマン２人が左右対称の振り付けをしたり、早乙女がソロで踊ったりする。見てるだけで楽しいのであるが、さらに一緒に踊ることによって会場は大いに盛り上がる。一緒に会場で踊れるのも、綾小路によって考え抜かれた曲と振り付けであるからであろう。

氣志團を絶賛するのは評論家や音楽専門誌の編集者たちだけではなく、同じ土俵に登っているミュージシャンたちの中にも、数え切れないほどいるという。そんな氣志團を作り上げてきたのが綾小路である。彼のプロデュース力によって今の氣志團がある。彼は「DIY(Do It Yourself)」をモットーとし、その言葉通り、氣志團の全てを作りあげてきた。そんな綾小路は常に客と同じ目線で、メイジャーデビューしてからも彼は自分自身を「 芸能界に一番近いところにいる一般人」「本来ステージに立つほどの人間では ない」と謙虚に語る。ファンとの距離感の近さ、親しみやすさを感じさせる。また、

「やっぱり俺たちみたいなことやる奴がいなかったんですよね。隙間産業のバンドなんで、ええ。そりゃあいろんな人からクエスチョンが出てくるようなことやってたと思うんですよね。氣志團は、やっぱりなんだかんだいっても、バカっていいなっていうふうに思ってもらえたらいいなあとずっと思っていたんですけど」「自分がかっこいいと思ってるものを、世間の人にもかっこいいと思ってもらおう。そのためにどれだけのプレゼンを世間にしていけるか。それが重要だ、と。こんなツッパリ野郎だけど、ツッパリってかっこいいんだぜっていうのがテーマだったんで。今まで俺が見てきた、俺が憧れたカリスマたちと俺たち氣志團の違いっていうのは　、そういう人間力は俺たちにはきっとないなあっていうか。」と語る。自分達は選ばれた人間ではない。だから他のアーティストとは違うやり方で、自分達が勝てるやり方で勝負しようというのが氣志團なのだ。世間には受け入れられないヤンキールックスであるが、自分達がかっこいい、これなら誰にも負けないという強い信念をもっているからこそ今でもこのルックスで堂々とステージに立てるのである。

また、綾小路の年齢は永遠の１６歳というように、少年時代に音楽からもらった夢や希望、憧れを今でもずっと持ち続けている。頑張ったら頑張っただけいいことがある。絶対に逃げない、諦めない。いつまでも夢を見続ける。そして夢を与える。こんな時代だからこそ、みんなを外に引っ張り出したい。みんなに元気になってもらいたい。などと発言するように、熱い思いを抱く人物なのだ。多くの経験を積み、多くの知識を蓄えた彼の発言には説得力があり、多くのファンを勇気づけている。『ぼくが中学生だとして氣志團を見たら、「こいつができんなら、おれにもできるだろう」と思うと思うんです。それがそいつのキッカケになってくれればいい。もし、そうなったら、楽しいなぁと。自分のやってきたことに価値はあったんだ、と。そう思えるじゃないですか。』と綾小路は言う。中学生の自分が勇気をもらえる、そんなバンドになること、そんな大人になることが目標でもあったのだろう。

ここまで氣志團について語ってきたが、氣志團と同じテイストを持つバンドは今の音楽

シーンではいない。音、ビジュアル、ダンス、などいろいろな角度から楽しむことができる。綾小路が少年期を過ごしてきた８０年代と言えば、音楽とファッションが共にムーブメント化し、若者が夢を見ることができたいい時代であったが、今はそれが難しい時代となった。だからこそ、現代では忘れがちな夢を見ることや、堂々と生きるパワーを氣志團からもらいたいものである。

(注１)下北沢 CLUB Que 下北沢にあるライブハウス。氣志團がよく出演していた。
(注 2)ユニコーン　1986 年から 1993 年まで活動していた日本のロックバンド

参考文献

「QuickJapan　Vol44」編集発行人　北尾修一
発行所　株式会社太田出版
発行日　2002 年 9 月 2 日
「瞬きもせずに」語り手　綾小路翔
発行所　株式会社ロッキングオン
発行日　2003 年 5 月 31 日
「夢見るころを過ぎても」語り手　綾小路翔
発行所　株式会社ロッキングオン
発行日　2004 年 11 月 30 日
「はじめての氣志團」著者　キッシーズ fromWEB
発行所　アートブック本の森
発行日　2003 年 11 月 30 日
「メモリアル氣志團」著者　キッシーズ fromWEB
発行所　株式会社シーエイチシー
発行日　2006 年 4 月 30 日
「氣志團　栄光の歴史」著者　木更津☆FOREVER
発行所　株式会社鹿砦社
発行日　2003 年 11 月 1 日

アールオーロック http://ro69.jp/live/detail/40787（2011 年 1 月）